

## 第 8 - 1 表 埼玉県水害年表

年	号	西暦	記 事
天安	2年 秋	858	大水害。各地被害甚大。
文治	2年 11月	1186	大里郡玉井に洪水あり。
建仁	元年 8月	1201	関東一帯大暴風雨にて民家倒壊し、北葛飾地方では大津波のため、溺死千余人に及ぶ。五穀の損害甚大。
嘉禄	元年 1~2月	1225	1月から2月に亘る連雨で各地に洪水。
建長	6年 7月	1254	風雨洪水。稼穀を傷む。
康元	元年 6月	1256	田園を損亡す。
正嘉	2年 8月	1258	関東一円に亘って大暴風雨あり、武蔵相模の田園の損害最も甚大。
文応	元年 6月	1260	大風雨、各地に洪水。
正応	5年 7月	1292	下野に大洪水、本県にも影響及ぼす。
天文	9年 8月	1540	武蔵、相模に大暴風雨あり、人家倒壊し大木が多く折れた。
元和	3年 4月	1617	9日夜から大風雨、12日入間川洪水、13日栗橋付近洪水舟橋流出。
元和	9年	1623	荒川氾濫、熊谷の石上寺が流出、忍まで一円の水となる。
寛永	8年 秋	1631	19日大洪水となり、堤防崩壊、人畜多く溺死す。
元禄	14年 7月	1701	荒川に洪水あり。津田新田（大里郡市田村）の堤防を押切り田畑に土砂を置き、代官は被害を検分して種子食糧を扶助。
享保	2年 7月	1717	北葛二合半領・松伏領水害甚し、江戸幕府は災民2,500人を救助す。
享保	5年 7月	1720	関東諸国に大風雨よこぎりて、諸所に出水を見た。
享保	8年 8月	1723	埼玉県岩槻領に出水、元荒川の堤切れ田畑損傷。
享保	12年 7月	1727	江戸開府以来の出水となり、本県に被害甚大。
享保	13年 9月	1728	大風雨ありて、各所に被害続出。
元文	元年 8月	1736	利根川など増水、上中条堤は箕の輪から四方寺まで破堤あり川越領59か村、騎西領14か村浸水、潰家11軒。
寛保	元年 7月	1741	荒川増水、下石原村堤55m余が押切られ、屋敷、立木等も多く吹き倒された。
寛保	2年 8月	1742	利根川、荒川、入間川など県内諸河川大氾濫。堤防の決潰は広く96カ所に及びその被害も甚大で多数の人命が失われた。（現在秩父線樋口駅前にこの水害の時の水位標が建てられているがこの時に荒川の洪水位は平水位上約18mの高さに達したと言われている。）
宝暦	7年 5月	1757	利根川、洪水あり。権現堂川堤決潰す。
明和	3年 6月	1766	神流川、烏川に洪水あり、各所に堤防の破壊を見、備前堀引入口に支障を来たす。
明和	5年 7月	1768	降雨長く続き入間郡の各河川に大出水があった。
安永	元年 8月	1772	東海道、奥羽地方に大風雨洪水。関東でも4,000余戸潰れた。権現堂川堤逆水にて決潰す。
安永	9年		
安永	9年 7月	1780	関東に洪水あり神流川、烏川等の堤防破損す。
天明	6年 7月	1786	関東大洪水利根川堤防を押切りの栗橋、羽生、岩槻、草加等被害多し。
寛政	3年 8月	1791	江戸にありては寛保の大水をうわまわる惨害が呈す。荒川満水、熊谷宿はずれの八丁土手堤破堤、久下の堤防4ヶ所破堤。田畑諸作・民家流出。

年	号	西暦	記	事
寛政	4年	7月	1792	神流川出水。田耕地出水、くね垣破損。
寛政	5年	5~9月	1793	諸国霖雨。
享和	2年	7月	1802	権現堂堤破堤、葛飾郡二合半領、松伏領水損害甚だしく2,500人を救助す。
文化	4年	6月	1807	神流川・烏川出水、破堤。
文化	5年	6月	1808	雨多く、洪水あふれ、米穀価貴し。
文化	13年	閏8月	1816	大風雨にて家屋・樹木・作物など吹き倒す。
文政	5年	8月	1822	川越附近洪水。
文政	6年	6月	1823	利根川、荒川共に増水、石原堤は越水し、上川上は北河原堰決潰す。
文政	7年	7月	1824	荒川通烏羽井村、市野川通北園部村など破堤あり。
文政	7年	8月	1824	破堤、田畑冠水、浸水家屋多数。
文政	11年	5月	1828	諸川溢れ、埼玉郡最も甚し。
天保	4年	8月	1833	大嵐樹木を吹き折り民家を破倒す。洪水田畑を押し流し人多く死す。
天保	7年		1836	台風による洪水と夏の低温の為、天明の飢饉以来の凶作となる。
弘化	2年	7月	1845	利根川、荒川、入間川など破堤。田畑被害・家屋浸水などあり。
弘化	3年	6月	1846	江戸川、荒川出水、権現堂川、江戸川、中川破堤。埼玉郡川俣村の利根川堤防およそ160間破堤。神流川氾濫甚し。
安政	6年	7月	1859	大暴風雨、大災害。130~140年このかたの洪水という。荒川破堤、流出56軒、死者28人。利根川、入間川破堤。神流川大氾濫。県内各地で損害は甚大で人的被害も大きかった。
元治	元年	8月	1864	暴風雨。越辺川増水、田畑に浸水。
明治	15年	9~10月	1882	暴風雨。利根川氾濫、破堤。北埼玉郡川辺、利島2村浸水甚し。北足立で死者2、北埼玉、北足立、比企、入間で流出9。
明治	18年	7月	1885	利根川、荒川破堤多く、死者7、負傷者2、流出3、全壊55、浸水多数。
明治	23年	8月	1890	県下大洪水。利根川・荒川など堤防決潰376ヶ所、被災町村326に及び死者16、負傷者1、流出702、破損倒壊2,375、浸水69,650に達し、農作物はおおむね収穫皆無となった。
明治	40年	8月	1907	安政6年以来の大出水。荒川溢水破堤。槻川・都幾川・越辺川・高麗川・入間川は氾濫。利根川・神流川は破堤。死者12、負傷者11、行方不明者29、家屋倒壊10、流出114、浸水17,850、破堤90か所、農業被害金額423万円。
明治	43年	8月	1910	明治最大の大洪水。県下の浸水地域は、全面積の24%にあたる11万町歩余りで激甚な災害となった。死者249、負傷者187、行方不明者98、住家全壊627、流出1,052、床上浸水59,306、破堤945、堤防損壊1,402、被害総額2,042万円。
大正	3年	8月	1914	暴風雨のため大麻生地内などで破堤し、死者13、住家全壊44、床上浸水10,485、農業被害額295万円。
大正	6年	9月	1917	台風が駿河湾から浦和を通過北上。死者11、負傷者31、行方不明2、住家全壊669、農業被害金額168万円。
昭和	10年	9月	1935	利根川の出水は未曾有の増水であったが本県では妻沼大橋が流出したほか被害軽少であった。

年 号	西暦	記 事
昭和 13年 8~9月	1938	台風が所沢から妻沼付近を通過。破堤9ヶ所、橋梁流出25、死者74、負傷者40、住家全壊469、半壊835、流出170、床上浸水4,750。
昭和 22年 9月	1947	(カスリーン台風) 大正・昭和を通じて最大の水害で明治43年以来の大災害。記録的降雨が戦時中濫伐と相俟って、利根川栗橋付近で破堤、中小河川50余か所破堤。利根川の濁流は白岡付近で荒川からの濁流と合流し、3km幅で春日部から吉川まで達した。被害は316市町村の72%に当たる228市町村。被災人員は348,827、被害総額は約100億円の激甚な災害となった。死者101、負傷者1,430、住家全壊725、流出396、床上浸水44,855。
昭和 23年 9月	1948	(アイオン台風) 死者2、行方不明1、住家全壊7、床上浸水1,460。
昭和 24年 8~9月	1949	(キティ台風) 小田原上陸後、秩父地方を経て日本海で温帯低気圧となった。死者12、負傷者12人、住家全壊154、流出4、床上浸水326、農業被害金額15億4千万円。
昭和 25年 7月	1950	(ヘンリー台風) 死者1、住家全壊3、床上浸水1,031
昭和 26年 7月	1951	(ケイト台風) 住家全壊2、橋りょう流出1
昭和 33年 9月	1958	(台風22号→狩野川台風) 死者2、負傷者2、行方不明1、流出1、床上浸水11,563戸。
昭和 34年 9月	1959	(台風15号→伊勢湾台風) 死者8、負傷者55、全壊351、半壊1,155、一部破損5,883、床上浸水291。
昭和 35年 8月	1960	(台風14号) 接近前より降雨が始まり、地盤軟弱の所へ台風の降雨があった事により秩父を中心として荒川の護岸工作物道路等の欠崩を見た。
昭和 37年 8月	1962	(台風14号) 床上浸水53、床下浸水3、山崩れ4。
昭和 39年 8月	1964	(前線) 半壊1、床上3、橋流出8、山崩れ12。
昭和 41年 6月	1966	(台風4号) 関東東方海上を進む台風と関東南部の前線の影響。死者6、行方不明2人、負傷者12人、家屋全壊2、半壊3、床上浸水17,665、床下浸水57,888。
	9月	(台風26号) 最大瞬間風速41mは熊谷気象台創設以来の最高記録となり、災害救助法を適用された市町村は52に及んだ。死者28人は昭和22年のカスリーン台風以来。負傷者694、全壊1,235、半壊6,679、流出1、一部破損80,262、床上浸水740、床下浸水10548、道路損壊708、橋流出102、破堤101、山(崖)崩れ257。
昭和 45年 6~7月	1970	(梅雨前線) 11日に梅雨入りし、20日まで山沿いや山間部では150~200mm、平野部でも100~120mmの雨を観測した。14日~16日には強く降り、戸田市の工場現場で見回り員1名が土手くずれで死亡、大滝村や小鹿野町ではがけくずれが発生。20日には大滝村で裏山から落ちてきた岩石の下敷きになって、寝ていた家族7名中3名が圧死した。
昭和 47年 9月	1972	(台風20号、竜巻) 台風20号が潮岬の南西約100kmの海上に達したとき、東松山市に竜巻発生。死者2、負傷者4、全壊5、半壊9、床上浸水55、床下浸水2,558、野菜だけで約11億円の被害。

年	号	西暦	記	事
昭和	51年	9月	1976	(台風17号) 寒冷前線と台風の影響。床上浸水2,425、床下浸水13,670、崖崩れ8。また、新座市管内の黒目川のはんらんによる水防活動のため自衛隊の派遣を要請した。
昭和	53年	7月	1978	(熱帯低気圧) 弱い熱帯低気圧が埼玉県北部を通過した影響。床上浸水5、床下浸水1,055、崖崩れ7、橋りょう破壊5、堤防決壊1。
昭和	54年	10月	1979	(台風20号) 埼玉県地方にもっとも接近した19日13時頃から16時頃にかけて、県内全域にわたり風雨による被害が続出し、死者2、重傷5、軽傷44、全壊6、半壊102、一部損壊1,438戸、床上浸水400、床下浸水2,880。
昭和	56年	10月	1981	(台風24号) 関東の南海上を北東に進んだ台風の影響。県南部を中心に住宅の一部損壊7戸、床上浸水2,119戸、床下浸水20,277戸におよぶ大きな被害をもたらした。
昭和	57年	9月	1982	(台風18号) 9月12日に御前崎付近に上陸した台風は、県の平野部を中心に大雨を降らせ、死者1名、負傷者4名、損壊家屋42戸、浸水家屋63,835戸におよぶ被害をもたらした。昭和41年の台風26号以来の災害救助法が9市に適用された。
昭和	58年	9月	1983	(台風10号) 9月27日～29日にかけての台風は、28日朝9時頃長崎県に上陸し、温帯低気圧となり、関東の南海上にぬけ、床上浸水3戸、床下浸水198戸、崖崩れ4ヶ所、道路損壊8ヶ所の被害をもたらした。
昭和	61年	8月	1986	(台風10号) 8月4日に本土に接近した台風は午後9時には温帯低気圧に変化したものの、5日朝にかけて大雨となり、通過地周辺の千葉・茨城・栃木・福島・宮城の各県を中心に大被害をもたらした。本県においても負傷者1、家屋の半壊2、一部破損1、床上浸水6,060戸、床下浸水20,275戸の被害が発生し、草加市には災害救助法が適用された。
平成	3年	9月	1991	(台風18号) 台風による大雨で住家全壊1棟、床上浸水6,382棟、床下浸水22,059棟等の被害が発生し、与野市、草加市、志木市、朝霞市及び富士見市の5市に災害救助法が適用された。
平成	5年	8月	1993	(台風11号) 台風による大雨で、軽傷2名、全壊1棟、一部破損2棟、床上浸水2,060棟、床下浸水15,787棟等の被害が発生した。
平成	8年	9月	1996	(台風17号) 台風による大雨で、負傷者4名、住家半壊1棟、一部破損26棟、床上浸水761棟、床下浸水4,329棟の被害が発生し、与野市では災害救助法が適用された。
平成	10年	8月	1998	(大雨) 本州南海上を北上してきた台風4号の影響で長期にわたり前線が停滞し、大雨となり、床上浸水814棟、床下浸水1,881棟の被害が発生し、川越市に災害救助法が適用された。
平成	10年	9月	1998	(台風5号) 台風による大雨で、負傷者2名、一部破損15棟、床上浸水585棟、床下浸水1,651棟の被害が発生し、与野市に災害救助法が適用された。
平成	10年	9月	1998	9月21日、深谷市内において竜巻が発生し、負傷者9名、半壊6棟、一部破損35棟及び農林被害が発生した。

年	号	西暦	記	事
平成	11年	8月	1999	(熱帯低気圧) 南海上にある熱帯低気圧がゆっくりと北上し、関東地方を通過した影響。大滝村中津川地区では道路寸断により孤立したキャンパーら240人を防災ヘリコプターで秩父防災基地に搬送した。負傷者2名、全壊2棟、半壊10棟、床上浸水462棟、床下浸水2,628棟、崖崩れ340箇所。
平成	12年	7月	2000	(台風3号) 関東地方に接近した台風による大雨で、負傷者1名、床上浸水599棟、床下浸水1,834棟などの被害が発生し与野市に災害救助法が適用された。
平成	12年	8月	2000	(雷雨) 県南部を中心とした激しい雷雨により負傷者2名、床上浸水370棟、床下浸水914棟などの被害が発生した。また、県北部で落雷による電気施設への被害が発生した。
平成	13年	8月	2001	(台風11号) 台風の影響による大雨で土砂災害、浸水被害が発生した。主な被害は、住家一部損壊46棟、道路被害89箇所。
平成	13年	9月	2001	(台風15号) 関東地方を直撃した台風により、秩父地方の山間部を中心に記録的な大雨となり、負傷者1名、住家全壊1棟、住家一部損壊17棟、崖崩れ9箇所などの被害が発生した。また、羽生市で突風による被害が発生した。
平成	14年	7月	2002	(台風6号) 台風の接近及び本州上陸に伴い、山間部を中心に夜から大雨となり、負傷者2名、住家一部損壊18棟、床上浸水18棟、床下浸水186棟、道路被害265箇所と、多大な被害が発生した。また、深谷市において竜巻による被害も発生した。
平成	14年	10月	2002	(台風21号) 台風の関東上陸に伴い、夜から大雨・強風となり、都市部を中心に雨、県南部を中心に強風となり、軽傷者2名、住家半壊6棟、住家一部損壊53棟、床上浸水11棟、床下浸水226棟、道路被害213箇所と、県内各地で被害が発生した。また、落雷により1800世帯に停電が発生した。
平成	16年	10月	2004	(台風22号) 台風の関東付近通過に伴い、8日昼頃から大雨となり、県内各地で浸水被害や道路被害が発生した。住家床上浸水159棟、床下浸水1403棟、道路被害880箇所。
平成	16年	10月	2004	(台風23号) 台風の関東付近通過に伴い、19日昼頃から大雨、県内各地で浸水被害や道路被害が発生した。住家床上浸水25棟、床下浸水260棟、停電120戸、道路被害585箇所。
平成	17年	8月	2005	(大雨) 県南東部を中心とした大雨により、県内各地で浸水被害や道路被害等が発生した。死者1名、床上浸水172棟、床下浸水572棟、道路被害107箇所。
平成	21年	8月	2009	(台風9号) 台風周辺の湿った空気の影響で大雨となり、床上浸水115棟、床下浸水856棟、道路被害10箇所、崖崩れ4箇所の被害が発生した。
平成	23年	7月	2011	(台風6号) 台風周辺の湿った空気の影響で大雨となり、県内各地で浸水被害や橋梁被害が発生した。床上浸水7棟、床下浸水139棟、橋梁被害2箇所、崖崩れ8箇所の被害が発生した。
平成	23年	8月	2011	(台風12号) 台風周辺の湿った空気の影響で大雨となり、県内各地で浸水被害や道路被害等が発生した。死者1名、床上浸水19棟、床下浸水95棟、道路被害1箇所、橋梁被害3箇所、崖崩れ35箇所の被害が発生した。
平成	23年	9月	2011	(台風15号) 台風の関東上陸に伴い、県内各地で浸水被害や橋梁被害が発生した。床上浸水5棟、床下浸水22棟、橋梁被害1箇所、崖崩れ2箇所の被害が発生した。

平成	24年	6月	2012	(台風4号) 台風の関東上陸に伴い、県内各地で浸水被害や崖崩れが発生した。床上浸水1棟、床下浸水1棟、崖崩れ3箇所の被害が発生した。
平成	25年	9月	2013	(竜巻) 9月2日発生 of 竜巻により、全壊31棟、半壊210棟の被害が発生し、越谷市、松伏町に災害救助法が適用された。
平成	25年	9月	2013	(台風18号、竜巻) 台風の接近により、県内で複数発生した。竜巻及びその後の台風の関東上陸に伴う大雨被害と合わせて全壊10棟、半壊23棟、床上浸水27棟、床下浸水174棟、崖崩れ1箇所の被害が発生し、熊谷市に災害救助法が適用された。
平成	25年	10月	2013	(台風26号) 台風の関東付近通過に伴い、県内各地で浸水被害や崖崩れが発生した。半壊1棟、床上浸水239棟、床下浸水1340棟、崖崩れ1箇所の被害が発生した。
平成	26年	2月	2014	(大雪) 2月14日からの大雪で人的被害、建物被害が発生した。死亡3名、重症28名、中等症135名、軽症296名、半壊1棟、一部損壊9棟の被害が発生し、秩父市、飯能市、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、神川町で災害救助法が適用された。県内の積雪量は秩父98cm、熊谷62cmとともに観測史上1位の積雪量であった。
平成	27年	9月	2015	(関東東北豪雨) 台風18号から変化した低気圧の影響により、県内各地で浸水被害や崖崩れが発生した。住家一部損壊6棟、床上浸水880棟、床下浸水3988棟、崖崩れ12箇所の被害が発生した。
平成	28年	8月	2016	(台風9号) 台風の関東上陸に伴い、県内各地で浸水被害や崖崩れが発生した。全壊2棟、半壊3棟、一部破損17棟、床上浸水398棟、床下浸水1715棟、崖崩れ17か所の被害が発生した。
平成	29年	10月	2017	(台風21号) 台風の関東上陸に伴い、県内各地で浸水被害や崖崩れが発生した。軽傷者11名、半壊45棟、一部損壊10棟、床上浸水458棟、床下浸水556棟、崖崩れ21か所の被害が発生した。
平成	30年	9月	2018	(台風21号) 非常に強い勢力を保ったまま徳島県に上陸後、関東付近通過に伴い県内各地で人的被害、建物被害が発生した。軽傷者18名、住家一部破損52棟、床上浸水2棟の被害が発生した。
平成	30年	9月	2018	(台風24号) 台風の関東付近通過に伴い、強風により県内各地で人的被害や建物被害、倒木による道路被害などが発生した。重傷者1名、軽傷者14名、住家半壊3棟、一部破損481棟、床下浸水2棟、道路被害21箇所の被害が発生した。
令和	元年	9月	2019	(令和元年房総半島台風) 令和元年房総半島台風の関東通過に伴い、大雨や強風等により県内各地で人的被害、建物被害が発生した。重傷者1名、軽傷者10名、住家一部破損88棟の被害が発生した。
令和	元年	10月	2019	(令和元年東日本台風) 令和元年東日本台風の本県通過に伴い、大雨や強風等により県内各地で人的被害、建物被害が発生した。死者4名(うち災害関連死者1名)、重傷者2名、軽傷者31名、住家全壊107棟、半壊570棟、一部破損996棟、床上浸水2,089棟、床下浸水3,371棟、道路被害710箇所、崖崩れ157箇所等の被害が発生した。本県では初となる大雨特別警報が40市町村に発令された。県では災害対策本部を設置し災害対応に当たり、県内48市町村に災害救助法を適用した。

令和 2年 7月	2020	(突風) 活発な積乱雲が通過した三郷市付近では突風が発生し、住家の瓦が飛散する等の被害が発生した。一部破損77棟、床下浸水2棟の被害が発生した。
令和 2年 8月		(大雨) 関東甲信地方で暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、大気の状態が不安定となり、大雨や雷雨となった所があった。一部破損1棟、床上浸水68棟、床下浸水54棟の被害が発生した。
令和 4年 7月	2022	(大雨) 県北西部を中心とした大雨により、軽傷者1名、床上浸水41棟、床下浸水87棟の被害が発生した。